佐賀大学地域学歴史文化研究センター
自己点検・評価報告書
（平成25年度）

平成27年1月

1. 地域学歴史文化研究センターの目的・目標

(1) 目的・目標

21世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学が国立大学法人化を迎えるにあたり設定した理念・中期目標・中期計画のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する文理融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成18年4月に設立された。従って、本センターの目標は、以下の通りである。

1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること
2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること
3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること
4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示すること

この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

(2) 基本的研究活動・事業

1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
3) 諸データベースの作成
4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
7) ウェブサイトによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

2. 地域学歴史文化研究センターの概要

(1)設立経緯

佐賀大学では、平成16年(2004)より学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。附属図書館所蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、平成15年2月に結ばれた佐賀大学と小城町(現小城市)との地域文化交流協定事業の支援として、平成16年8月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。平成17年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの歴史文化研究と地域貢献事業の発展上に、さらには前述の通り佐賀大学中期計画・目標を達成するために、地域学歴史文化研究センターが平成18年4月に設立された。

(2)センターの概要

1)本センターは、地域(佐賀)の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創出に向けた研究をすすめている。

2)各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。

3)研究拠点として、平成18年10月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4)教職員構成は以下の通り(平成26年3月時点)

センター長	1名
副センター長	2名
専任教授(センター長兼任)	1名
専任准教授(副センター長兼任)	1名
併任教授	2名
併任准教授	3名
特命教授	1名
教務補佐員	1名
事務補佐員	1名

5)部門別構成は以下の通り(平成26年3月時点)

考古学研究部門	重藤　輝行併任准教授(部門長、文化教育学部)
国文・文献学研究部門	白石　良夫(部門長、文化教育学部)
地域史・史料学研究部門	伊藤　昭弘専任准教授(部門長)
	宮島　敦子併任教授(文化教育学部)
	山本　長次併任准教授(経済学部)
	鬼嶋　　淳併任准教授(文化教育学部)

洋学・思想史研究部門　　青木　歳幸専任教授（部門長）

6）歴代教職員（肩書きは当時のもの）

○センター長

宮島　敬一（経済学部教授）	平成18年4月～19年2月
古賀　和文（副学長・理事）	平成19年3月～7月（センター長事務取扱）
高崎　洋三（医学部教授）	平成19年8月～22年3月
半田　駿　（農学部教授）	平成22年4月～24年3月
青木　歳幸（センター専任教授）	平成24年4月～

○副センター長

飯塚　一幸（文化教育学部助教授）	平成18年4月～19年3月
青木　歳幸（センター専任教授）	平成19年4月～24年3月
伊藤　昭弘（センター専任准教授）	平成24年4月～
宮島　敦子（文化教育学部教授）	平成25年4月～

○部門長

考古学研究部門

佐田　茂　（文化教育学部教授）	平成18年4月～20年3月
重藤　輝行（文化教育学部講師）	平成20年4月～

国文・文献学研究部門

井上　敏幸（文化教育学部教授）	平成18年4月～20年3月
生馬　寛信（文化教育学部教授）	平成20年4月～22年3月
白石　良夫（文化教育学部教授）	平成22年4月～

洋学・思想史研究部門

青木　歳幸	平成18年4月～

地域史・史料学研究部門

飯塚　一幸	平成18年4月～19年3月
伊藤　昭弘	平成19年4月～

○専任教員

教授	青木　歳幸	平成18年4月～
講師	伊藤　昭弘	平成18年4月～19年11月
准教授	伊藤　昭弘	平成19年12月～

○併任教員

佐田　茂	平成18年4月～20年3月
井上　敏幸	平成18年4月～20年3月
飯塚　一幸	平成18年4月～19年3月
石川　亮太	平成18年7月～24年3月
鬼嶋　淳	平成19年10月～

重藤　輝行	平成20年4月～
生馬　寛信	平成20年4月～22年3月
白石　良夫	平成21年4月～26年3月
山本　長次	平成24年4月～
宮島　敦子	平成25年4月～

○特命教員

長野　暹（佐賀大学名誉教授）	平成21年6月～
生馬　寛信（佐賀大学名誉教授）	平成22年4月～
ミヒェル・ヴォルフガング（九州大学名誉教授）	平成22年4月～
平井　昭司（前東京都市大学教授）	平成22年4月～
井上　敏幸（佐賀大学名誉教授）	平成23年4月～
鈴木　一義（国立科学博物館理工学研究部主任研究官）	平成23年4月～
松田　清　（京都大学大学院人間環境学研究科教授）	平成23年4月～
村上　隆　（京都国立博物館保存修理指導室長）	平成23年4月～
高崎　洋三（佐賀大学名誉教授）	平成23年4月～
中村　政俊（佐賀大学名誉教授）	平成23年4月～
半田　　駿（佐賀大学名誉教授）	平成24年4月～
宮島　敬一（佐賀大学名誉教授）	平成25年4月～

○非常勤博士研究員

野口　朋隆	平成23年5月～25年3月
伊香賀　隆	平成25年4月～26年3月

○教務補佐員

伊藤　彰子	平成18年4月～19年11月
亀井　森	平成19年11月～22年3月
大塚　俊司	平成20年5月～

○事務補佐員

古賀　亜紀	平成21年4月～24年7月
上祐　佐智子	平成24年8月～

3．25年度の活動に関する自己評価

(1)教育

ア)教養教育を所管する教養教育運営機構との連携をすすめた。具体的には専任教員による教養教育授業担当などである。

イ)上記のほか、大学コンソーシアム授業開講や、e―ラーニング、文化教育学部での地域学関連専門科目開講など、学内他部局と連携し教育活動を実施した。

ウ)センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約2400点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。

エ)公開講座「佐賀学のススメ」を開講し、市民向けの地域学教育を図った。

オ)佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を10回開催した。

カ)佐賀市との共催公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」Ⅲ」を開催した。

キ)全学教育機構のインターフェース科目「佐賀の歴史と文化」の開講に協力した。

〈自己評価〉

本センターは研究を専門としているが、設立以来、研究成果の教育活動への活用を意図してきた。具体的には大学教養教育における地域学教育を構想し、上記の通り教養教育機構との連携を図った。

社会教育の面では、市民参加型の古文書講座や公開講座を自治体と共催などにより開催し、地域学の有効性や史料保存の重要性について、市民の理解が深まるよう努めた。

(2)研究

ア)佐賀大学附属図書館所蔵「小城鍋島文庫」の和歌関連資料から、小城藩の和歌に関する研究を進め、成果を小城市との共催展「小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首和歌』の里帰り～」を開催して市民に還元したほか、研究図録を刊行した。

イ)地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、『文人大名　鍋島直條の詩箋巻』を刊行した。

ウ)地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、山本家・深江家の史料調査を実施した。

エ)学内プロジェクト「地域学創出のための医文理融合型研究」(略称地域学創出プロジェクト)は最終年度を迎え、成果として論集『佐賀学Ⅱ』を刊行した。

オ)前掲「地域学創出のための医文理融合型研究」の一環として地域学シンポジウムを2回開催した。第1回は鹿島市立図書館にて鹿島藩の文芸と思想に関する内容、第2回は佐賀大学にて日本医学史における佐賀の位置づけに関する内容を扱った。

カ)研究成果をわかりやすく市民・学生に伝えるために開始した「佐賀学ブックレット」の第2弾として山本長次著『リコー三愛グループ創始者　市村清と佐賀』、第3弾として鬼嶋淳・藤永豪著『有

明海干拓社会の形成』を刊行した。

キ)所属教職員のほか、佐賀地域歴史文化に関する学外研究者の成果をまとめた研究紀要第8号を刊行した。

ク)青木歳幸教授は科研費基盤研究(C)「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(研究代表者、平成24～26年度、5年度900千円)、同(B)「佐賀・出雲・盛岡南部の明治期における在来鉄産業技術の展開と地域社会変動の分析」(研究分担者、平成23～27年度、25年度230千円)を獲得した。伊藤昭弘准教授は基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成24～26年度、25年度700千円)、同(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究分担者、平成21～25年度、25年度70千円)を獲得した。

〈自己評価〉

本年度もさまざまな分野で研究成果を挙げることができた。特に最終年度を迎えた「佐賀学創出プロジェクト」においては、論集というかたちで成果を出した。また佐賀学ブックレットも、今後年1回の刊行を計画している。

(3)国際交流・地域貢献

ア)小城市教育委員会との共催展「小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首和歌』の里帰り～」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。

イ)上記共催展に伴い講演会を3回開催した。

ウ)佐賀県との共催古文書講座を開催した。

エ)佐賀市との共催公開講座を開催した。

オ)「佐賀県歴史データベース」により山本家文書など佐賀県関係古文書のデータを公開した。

カ)公開講座「佐賀学のススメ」を6回企画・開催した。

キ)みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。

ク)ウェブサイトを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。

ケ)産学官連携事業「地域の歴史文化調査研究協力事業」のもと、県内自治体や民間団体との歴史文化面における交流・協力をすすめた。

コ)中国の研究者との国際シンポジウムを中国で開催した。

〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元など、本年度も大きな成果をあげることができた。また国際交流について特筆すれば、国際シンポジウムを中国で開催し、内外の研究者との交流を深めたことの意義は大きい。

(4)組織運営

ア)平成26年6月現在専任教員2名、併任教員5名、特命教員13名、教務補佐員1名、事務補佐員1名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めている。また、文化教育学部や全学教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ)各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会(学部の教授会に相当)を4回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。

ウ)センター専任・併任教員による会議を2ヶ月に1度開催し、センターの運営について検討した。

エ)所蔵図書・資料の増加による菊楠シュライバー館の狭隘化、および火災から貴重資料を守るため、理工学部3号館に研究室を借用し、書庫・作業・会議スペースとして活用している。しかし菊楠シュライバー館の狭隘化や火災対応の未整備は解決していない。

〈自己評価〉

組織運営はこれまで同様円滑にすすめることができた。しかし設備の問題は今後も課題である。

4. 事業一覧　　個人の肩書はすべて当時のもの

A)展示

①特別展

○主催・共催

「小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首和歌』の里帰り～」(小城市教育委員会共催、10月5日～11月10日、於　小城市立歴史資料館)

②センター展示室(菊楠シュライバー館1F)におけるミニ展示

○常設展

「写真にみる旧制佐賀高校」

○特別展

「近世の医学と佐賀」

B)講演会

○特別展「小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首和歌』の里帰り～」記念講演会(小城市教育委員会主催、センター協力、10月5日、26日、11月2日、於　小城市立歴史資料館)

白石良夫(文化教育学部・センター併任教授)「小城文庫本十帖源氏について」

久保田啓一(広島大学教授)「小城鍋島家の和歌と宮廷歌壇」

井上敏幸(佐賀大学名誉教授・センター特命教授)「直能公の和歌」

C)シンポジウム

○第3回在来知歴史学国際シンポジウム(中国文字博物館・中国社会科学院・精華大学・在来知歴史学研究会共催)(10月24、25日)

1日目(於　中国文字博物館)

唐　際根(中国社会科学院考古研究所研究員)「《真実的古代》与《古代的真実》:商王朝的并非奴隷社会」

青木歳幸(センター専任教授・センター長)「相互扶助の思想と国民健康保険の系譜」

蘇　栄誉(中国科学院自然科学史研究所研究員)「古器物的制作技術:非文本文献的知識構建—以殷墟青銅鼎制作為例—」

中山博智(文字芸術研究所)「「在・来・知」考」

周　見　(中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員)「渋沢栄一読《論語》」

2日目(於　安陽賓館)

伊香賀隆(非常勤博士研究員)「「陽明学」再考」

雷　鳴(南開大学経済研究所副教授)「儒家孝道何以長期存在:一個比較経済史的視

角」

張　涛(清華大学自動制御学部教授)「基于 e-Arch 系統的考古数据可視化研究」

長野　暹(佐賀大学名誉教授・センター特命教授)「北九州における公害と克服」

厳　立賢(中国社会科学院近代史研究所研究員)「日本従伝統経済向近代経済転化時期商品経済発展的特典与中国的比較」

相良英輔(広島経済大学大学院教授)「一九世紀後半のたたら製鉄業と労働者組織」

榮　文麗(中国科学院自然科学史研究所研究員)「従《引進来》到《走出去》—従彩電行業看技術進歩対経済発展的推動作用—」

竹下幸一(佐賀大学客員研究員)「『弐墅截(いちのきり)研究データベースの開発』」

孫　建国(河南大学経済学院)「従日本問屋制度看工業化路径的転変」

李　毅　(中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員)「恰当的産業発展路径選択的歴史意義—以日本戦後不同階段伝統与現代因素関係処理的比較為中心—」

牛　亜華(中国中医科学院中医薬信息研究所研究員)「伝統医学与西方医学対接的嘗試—《華洋臓象薬纂》研究」

鬼塚克忠(佐賀大学名誉教授)「東アジアにおける古代盛土の構築方法と風土の関連について」

倪　月菊(中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員)「政治弾性対中日経貿関係的影響—以《LT 貿易》為例」

大串浩一郎(佐賀大学大学院工学系研究科教授)「嘉瀬川と緑川における伝統的治水技術の比較について」

陳　建　(中国人民大学経済学院国際経済学部教授)「人民幣国際化的歴史進程与現状研究」

脇田久伸(福岡大学名誉教授)「ICP-MS 法とX線分析法を用いた歴史鉄試料の分析」

童徳琴(九州大学人文科学府博士後期課程)「清末中国における薬種流通システム中の産地市場について」

張　宇燕(中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員)「初始制度与東方世界的停滞—関于晩明中国何以《錯過》経済起飛歴史機遇的猜想」

郭　玉海(故宮博物院)「伝拓技的伝承与弘揚」

○佐賀大学出前講演会「鹿島藩の文芸と思想」(鹿島市教育委員会共催、於　鹿島市生涯学習センター　エイブル、12月14日)

講演

中尾友香梨(文化教育学部・センター併任准教授)「文人大名—鍋島直條」

伊香賀隆(非常勤博士研究員)「鹿島藩に伝えられた黄檗宗」

座談会

コメント・コーディネーター　井上敏幸(佐賀大学名誉教授・センター特命教授)

○第6回地域学シンポジウム「日本医学史における佐賀」(地域学創出プロジェクト共催、於　佐賀大学経済学部、2月22日)

講演

青木歳幸(センター専任教授・センター長)「佐賀藩医学史の研究」

酒井シヅ(順天堂大学名誉教授)「近代医学黎明期の日本の医学」

ディスカッション

特別展示 佐賀大学所蔵「解体新書」(於　菊楠シュライバー館)

D)公開講座など

佐賀大学公開講座(センター企画)「佐賀学のススメ」(平成25年9月～26年2月、全6回、於　佐賀大学附属図書館ほか)

佐賀大学公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」Ⅲ」(佐賀市共催、平成25年5月～9月、全5回、於　佐賀大学附属図書館ほか)

古文書講座中級編(地域学歴史文化研究センター・佐賀県立図書館共催、平成25年5月～26年2月、全10回、於　佐賀県立図書館)

E)調査

佐賀市・深江家文書(佐賀藩士、約500点)

伊万里市・山本家文書(酒造業、佐賀県県議など、約1万5千点)

F)刊行物

白石良夫(文化教育学部・センター併任教授)編『小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首和歌』の里帰り～』

中尾友香梨(文化教育学部・センター併任准教授)・井上敏幸(佐賀大学名誉教授・センター特命教授)編『文人大名　鍋島直條の詩箋巻』

『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』第8号

佐賀近代史研究会編『佐賀近代史年表』

佐賀大学・地域学創出プロジェクト編『佐賀学Ⅱ　佐賀の歴史・文化・環境』

山本長次(経済学部・センター併任准教授)著『リコー三愛グループ創始者　市村清と佐賀』(佐賀学ブックレット第2集)

鬼嶋　淳(文化教育学部・センター併任准教授)・藤永　豪(文化教育学部准教授)著『有明干拓社会の形成―入植者たちの戦後史―』(佐賀学ブックレット第3集)

G)研究プロジェクトなど

○佐賀大学学内研究プロジェクト

「地域学創出のための医文理融合型研究」(代表青木歳幸(センター専任教授)、学内教員21名が参加、平成23年度～25年度)

○産学官連携事業

「地域の歴史文化調査研究協力事業」(代表伊藤昭弘(専任准教授)、佐賀県・鹿島市　・小城市などと連携)

H)外部資金

○科学研究費補助金

青木歳幸　基盤研究(C)「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(研究代表者、平成24～26年度、25年度900千円)

青木歳幸　基盤研究(B)「佐賀・出雲・盛岡南部の明治期における在来鉄産業技術の展開と地域社会変動の分析」(研究分担者、平成23～27年度、25年度230千円)

伊藤昭弘　基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成24～26年度、25年度700千円)

伊藤昭弘　基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究分担者、平成21～25年度、25年度70千円)

I)教育関係

○授業担当(専任教員)

・青木　歳幸専任教授

◇教養教育

「地域の蘭学」

「江戸時代の医学と医療」

「現代社会と医療Ⅰ」

◇大学コンソーシアム

「佐賀の蘭学」

◇e・ラーニング

「チャレンジ佐賀学」

◇文化教育学部

「日蘭文化交流史論」

◇教育学研究科

「地域科学技術史」

・伊藤　昭弘専任准教授

◇教養教育

「近世日本の社会と経済」

◇文化教育学部

「西日本地域史論」

◇教育学研究科

「地域史研究特論」

佐賀大学地域学歴史文化研究センター25年度事業に関する意見

所属等　佐賀県立博物館

氏名　　藤井　祐介

佐賀大学地域学歴史文化研究センターの 25 年度の事業について、以下の通り見解・意見を述べる。

1）教育活動

センターは専任教員が学内で授業を担当し、公開講座・古文書講座・講演会を開催するなど精力的に教育活動をすすめている。今後もこうした活動を学内外で実施し、地域の歴史文化に関心を持つ人材の育成をすすめてほしい。

2）研究活動

専任教員を中心に着実に研究成果を挙げている。特に今年度は論集・ブックレット2冊を刊行し、学会および地域社会に研究成果を発信し、評価を得ている。

3）国際交流・地域貢献

中国研究者とのシンポジウムを開催し、国際交流を積極的にすすめている。地域貢献も展示・出版・講座・講演会など多様な成果を挙げており、佐賀大学の歴史・文化面における地域社会への「顔」ともいえる事業をすすめている。

4）組織運営

施設面での脆弱さは解消されていない。学内でさらに成果を発信し、理解を得ることで充実を図るほか、外部資金の獲得が必要となるであろう。